

							R5年度 医学科 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー（DP）） (3＝DP達成のために、特に重要な事項 2＝DP達成のために、重要な事項 1＝DP達成のため、望ましい項目 あてはまらない項目は空欄。)														
							医療人としての適切な判断力・行動力		コミュニケーション能力		問題解決・自己研鑽能力		知識を統合し活用する能力		臨床能力（知識・技能・態度を統合し活用する能力）		研究への志向力		グローバル化への志向力		地域医療への志向力
時間割コード (7桁)	授業科目	履修学年	通年	前期	後期	GIO(一般目標)、学修目標	SBO(行動目標)、学修成果(到達目標)	1. 豊かな人間性、幅広い教養と高い倫理観に基づいて物事を判断し、行動することができる。	2. 生命の尊厳及び患者の権利と人格尊重の重要性を理解し、患者の立場に立って行動することができる。	3. 医療安全の重要性を理解し、また、医師の義務や規則を遵守して行動することができる。	4. 医療人に必要なコミュニケーション能力を身につけ、患者やその家族と良好な人間関係を築くことができる。	5. 多職種連携のチーム医療を理解し、相互を尊重し行動することができる。	6. 未知の課題に対して、自ら積極的に解決を図ろうとすることができる。	7. 生涯にわたる自己研鑽に励むことができる。	8. 基礎医学、社会医学及び臨床医学で修得した知識を統合し、医学・医療に関する事象を幅広い視野で考えることができる。	9. 修得した医学の知識をもとに、患者の病態から治療・ケアのアプローチまで概説することができる。	10. 基本的な知識、技能、態度を身につけ、患者を総合的に診察・診療することができる。	11. 研究心（リサーチマインド）を持って、真理を探究し、未知の分野を切り拓こうとすることができる。	12. 海外の医療や異文化を理解し、グローバルな視点で物事を判断し行動することができる。	13. 地域医療が抱える諸問題に対して積極的に取組もうとすることができる。	
101141A 101141B 101141C 101141D	実用英語演習Ⅰ	2年		1		Murphy: This course is designed to help 2nd-year medical students improve their English communication skills, with particular attention to writing. Students will learn about numbers of science-related topics and work on developing their expressive ability through reading, discussion, and writing tasks. Tellyan: This course is designed for medical students who need a day to become doctors. It presents them with English from a wide variety of medical fields and situations, develops their communication skills, and provides them with background in major medical and care concepts. Pertinent medical terminology will be presented in a variety of ways in each unit.	Murphy: The students will acquire up-to-date vocabulary and expressions which then by applying to their independent writing tasks will enable them to enhance the quality of their English expression. Tellyan: The goal of this class is to systematically build the student's ability to learn and use advanced English in a medical atmosphere. Our goal is for the students to have confidence to present their own thoughts, feelings and opinions in English in a medical situation. The students will combine exposure to medical English with practice in various settings to help them achieve a higher level of proficiency.				3								3		
101146A 101146B 101146C 101146D	実用英語演習Ⅱ	2年		1		Murphy: This course is designed to help 2nd-year medical students improve their English communication skills, with particular attention to writing. Students will learn about numbers of science-related topics and work on developing their expressive ability through reading, discussion, and writing tasks. Tellyan: This course is designed for medical students who need a day to become doctors. It presents them with English from a wide variety of medical fields and situations, develops their communication skills, and provides them with background in major medical and care concepts. Pertinent medical terminology will be presented in a variety of ways in each unit.	Murphy: The students will acquire up-to-date vocabulary and expressions which then by applying to their independent writing tasks will enable them to enhance the quality of their English expression. Tellyan: The goal of this class is to systematically build the student's ability to learn and use advanced English in a medical atmosphere. Our goal is for the students to have confidence to present their own thoughts, feelings and opinions in English in a medical situation. The students will combine exposure to medical English with practice in various settings to help them achieve a higher level of proficiency.				3								3		
110512J 110522J	解剖学Ⅰ・Ⅱ (防・骨格・末梢神経学)	2年		30時間		2年次に、解剖学と生理学にて人体の構造と機能に関する膨大な知識を習得する必要がある。その中で、身体・運動・感覚機能に関わる構造と機能の基本を、筋・骨格系・末梢神経系（自律神経系を含む）を軸とした講義・実習を通して理解する。	・人体の主な骨格の構成と機能を説明できる。・四肢、体幹、頭頸部の骨格筋名とその支配神経、関節における作用を説明できる。・脊髄神経と神経叢の構成及び、主な骨格筋支配と皮膚分布を概説できる。・脳神経の名称、走行・分布と機能を概説できる。・臓器に分布する自律神経叢、神経節を概説できる。	2		2	2	2	3	2	3		3	1			
	解剖学Ⅰ・Ⅱ (内臓学)	2年		8時間		人体を構成する器官系の種類と各器官系を構成する内臓（器官）と、器官の間および器官系の間における構造と機能の関係を学び、人体の構造と機能との関連において系統的に理解できる能力を養う。	・人体を構成する器官系と各器官系を構成する内臓（器官）を系統的に説明できる。・各器官系内の器官の間・器官の関係を組織学的構造および機能と関連づけて説明できる。・器官系間の関係を機能と関連づけて説明できる。・体腔の区分と臓器の配置と機能を関連づけて説明できる。	2		2	1	2	2	1	3		3	1			
	解剖学Ⅰ・Ⅱ (人体解剖学)	2年		184時間		全ての専門科目学習の基幹となる人体に関する知識を修得するために、正常な体の形態と構造を系統的に理解した上で、各系統の関係を有機的かつ三次元的に把握し、構造と機能の関連について理解できる能力を養う。	1. 各系統を構成する個々の器官の形態や構造および互いの立体的な位置関係を正しく理解し、解剖学用語を用いて説明する。2. 各器官の構造や系統の構成と機能を関連づけて説明する。3. 人体の各部の断面図を用いて三次元的に理解した上で、その内臓の所見を説明する。4. 正常な構造における性差や個体差について説明する。	2		2	2	2	2	2	3		3	1			
	解剖学Ⅰ・Ⅱ (中枢神経学)			31時間		今後に学ぶ薬理学、平行して行う生理学、臨床専門科目の脳神経外科学、神経内科学、精神医学、整形外科学、放射線医学、眼科学、耳鼻咽喉科学などの基盤となるものである。脳・脊髄の構造を立体的および全身的に把握するとともに、その構成要素のつながりを機能として臨床的に重要な事項と関連づけて理解する。	以下のコアカリキュラム記載の項目を説明・概説できること。・中枢神経系（と末梢神経系）の構成・脳の血管支配と血液脳関門・髄膜・脳室系の構造と脳脊髄液の産生と循環・脊髄の構造、機能局在と伝導路・脳幹の構造と伝導路・脳神経の名称、核の局在、走行・分布と機能・大脳の構造・大脳皮質の機能局在（運動野・感覚野・言語野）・辺縁系の構成・視覚路・小脳の構造と機能・大脳基底核（線条体、淡蒼球、黒質）の線維結合・視覚、温度覚、触覚と深部感覚の受容機序と伝導路・視覚・聴覚・平衡覚、嗅覚、味覚の受容機序と伝導路・交感神経系と副交感神経系の中核内局在、末梢分布、機能と伝達物質・視床下部の構造	2		2		2	3	2	3		3	1			
	解剖学Ⅰ・Ⅱ (人体発生学)			14時間		成体における臓器系の複雑な立体構築とその意義をより良く理解するために、受精から出生さらに死に至るまでの過程における様々な発生現象とそのメカニズムを理解し、また各発生段階、臓器・器官系における発生の異常がどのような原因によって起こり、どのような結果をもたらすかを認識する。	1. ヒト胎生期を構造・機能的観点から系統的に区分し、それぞれの時期における特徴的な発生現象を説明する。2. 各器官、組織がどのような過程を経て形成されて成体のそれと到達するの、また互いの最終的な位置関係に置かれるのか記述する。3. 先天異常の種類・成因・頻度を述べ、その主なものについて発生病理を説明する。	2		2	1	2	1	3		3	1				
110617J	生理学Ⅰ（講義）	2年		34時間		1. 生理学の基本概念であるホメオスタシスを理解する。2. 本科目で講義される調節系を学び、それらの調節メカニズムを理解する。3. それぞれの調節系の有機的関連を理解し、個体維持のメカニズムを包括的に学ぶ。	1. 血圧の決定要因と調節メカニズムを説明できる。2. 呼吸調節メカニズムとガスの運搬様式を説明できる。3. クリアランスの概念を用いて尿の生成メカニズムを説明できる。4. 消化・吸収のメカニズムを概説できる。5. 内分泌系による情報伝達メカニズムを説明できる。6. 女性性周期、生殖を概説できる。							2							
110618J	生理学Ⅰ（実習）	2年		24時間		1. 生理学の基本概念であるホメオスタシスを理解する。2. 本科目で講義される調節系を学び、それらの調節メカニズムを理解する。3. それぞれの調節系の有機的関連を理解し、個体維持のメカニズムを包括的に学ぶ。	1. 血圧の決定要因と調節メカニズムを説明できる。2. 呼吸調節メカニズムとガスの運搬様式を説明できる。3. クリアランスの概念を用いて尿の生成メカニズムを説明できる。4. 消化・吸収のメカニズムを概説できる。5. 内分泌系による情報伝達メカニズムを説明できる。6. 女性性周期、生殖を概説できる。						3	2							
110615J	生理学Ⅰ	2年		48時間		1. 生理学の基本概念であるホメオスタシスを理解する。 2. 本科目で講義される調節系を学び、それらの調節メカニズムを理解する。 3. それぞれの調節系の有機的関連を理解し、個体維持のメカニズムを包括的に学ぶ。	1. 血圧の決定要因と調節メカニズムを説明できる。 2. 呼吸調節メカニズムとガスの運搬様式を説明できる。 3. クリアランスの概念を用いて尿の生成メカニズムを説明できる。 4. 消化・吸収のメカニズムを概説できる。 5. 内分泌系による情報伝達メカニズムを説明できる。 6. 女性性周期、生殖を概説できる。						3	2							
110627J	生理学Ⅱ（講義）	2年		26時間		断片的な知識の暗記に留まることなく、生理学的な物の考え方をしっかり修得する。このことにより柔軟な思考能力を自己研鑽する習慣を養う。	(1)興奮性細胞の基礎現象(静止膜電位・興奮・伝導・伝達)を概説できる。(2)感覚器官の生理機能を概説できる。(3)神経回路網による生体レベルでの情報統合と制御機能を概説できる。(4)心筋の活動と循環機能の制御を概説できる。	2					2		3	3		3			
110628J	生理学Ⅱ（実習）	2年		14時間		断片的な知識の暗記に留まることなく、生理学的な物の考え方をしっかり修得する。このことにより柔軟な思考能力を自己研鑽する習慣を養う。	(1)興奮性細胞の基礎現象(静止膜電位・興奮・伝導・伝達)を概説できる。(2)感覚器官の生理機能を概説できる。(3)神経回路網による生体レベルでの情報統合と制御機能を概説できる。(4)心筋の活動と循環機能の制御を概説できる。	2			2	2	3	3	3		3				
110625J	生理学Ⅱ	2年		40時間		【講義】 神経・筋肉系の生体機能を生み出すシステムを分子から個体レベルまで広く学び、人体の正常生理機能についての理解を深める。 【実習】 ヒトおよび動物を対象として細胞レベル、組織レベル、個体レベルでの解析を行うことで生理システムを理解し、考察する力を養う。	【講義】 (1)神経細胞の基礎現象(膜電位・興奮・伝導)を説明できる。 (2)神経筋・平滑筋・心筋の構造と機能を説明できる。 (3)感覚器官の構造と機能を説明できる。 (4)中枢神経系における情報統合と機能発現の機構を説明できる。 【実習】 (1)活動電位の発生と伝導を説明できる。 (2)神経筋の制御機構を説明できる。 (3)心電図の測定法としくみを説明できる。 (4)実験結果についての科学的考察ができる。	2			2	2	3	3	3	3		3			
110730J	生化学 (講義)	2年		85時間		分子を基盤に生命現象を明らかにするものが生化学である。従って、生体の構成成分の構造・機能及びそれらの代謝は加齢のこと、遺伝子や代謝異常を含む様々な疾患の原因と治療につながる生体成分の動態の解明すべてが生化学の課題である。近年この分野の進歩は著しく、その増え続ける知識をすべて吸収することは不可能である。学生諸君に求められるのは単なる知識の記憶ではなく、原理、原則を知ってこれらを活用する能力と、問題点を自ら発見し、これを解決する能力である。具体的には、人体を構成する物質の構造、機能およびその代謝と、人体における遺伝子発現を理解し、これを臨床医学に応用する能力を養うとともに、自ら考え、学ぶ習慣を身につける。	1) エネルギー産生と消費の過程を説明する。2) 糖質、脂質、タンパク質、核酸の代謝経路を消化、吸収、輸送、排泄をふくめて説明する。3) それぞれの代謝経路の調節と相互関係を説明する。4) 遺伝子発現とその調節機構を説明する。5) 上記のそれぞれについて、その異常をひきおこす原因を列挙し、結果として生ずる人体への影響を述べる。							3		3	3	3	3		
110951J	医科遺伝学	2年		15時間		医学教育モデル・コア・カリキュラム（H28年度改訂版）に、新たに遺伝医療とゲノム医療に関わる学習目標が加わった。1つは「病因と病態」の中の「遺伝的多様性と疾患（ゲノム・染色体・遺伝子の多様性と疾患との関係を理解する）」であり、もう1つは「全身に及ぶ生理的変化、病態、診断、治療」の中の「遺伝医療・ゲノム医療と情報の特性（遺伝情報・ゲノム情報の特性を理解し、遺伝情報・ゲノム情報に基づいた診断と治療、未病者を患ふ患者・家族の支援を学ぶ）」である。それぞれ、7項目と8項目の学修目標がある。分子遺伝学を学ぶとともに、遺伝カウンセリングを代表とする臨床遺伝学、そして遺伝医療における倫理的・法的・社会的配慮等についても概説する。卒業時に、遺伝医療およびゲノム医療に関わるチームの診療内容を十分に理解できることを目的とする。	1. メンデル遺伝および非メンデル遺伝について概説できる。2. 染色体および遺伝子の異常による疾患について概説できる。3. 遺伝情報の特性（不変性、予見性、共有性）を説明できる。4. ゲノム医療における遺伝学的検査の目的と意義を概説できる。5. 遺伝カウンセリングの意義と方法を説明できる。	3		2					1						
112830J	免疫学 (展開)	2年		16時間		生体の恒常的維持には免疫システムの機能的バランスが不可欠である。免疫応答が機能不全になれば感染症や免疫不全が問題となり、免疫応答性が過剰になれば自己免疫疾患やアレルギーなどの様々な疾患が生じます。免疫力が低下するとがんに対する抵抗力も低下します。2年生では、1年生修得で学んだ基礎免疫学の知識を基にして、これらの疾患の病態や病態の理解に基づく治療法について学びます。さらに、がんに対する免疫療法や臓器移植に伴う免疫応答の制御法や生殖免疫についても学んでもらいます。	1. 免疫応答を調整する細胞や分子を説明できる。2. 様々な感染症に対する生体防御・免疫反応を説明できる。3. 様々な自己免疫疾患の免疫的病態を説明できる。4. 自己免疫疾患に対する治療を説明できる。5. アレルギー疾患・アナフィラキシーの病態と治療を説明できる。6. 免疫不全の種類と病態を説明できる。7. がんに対する免疫応答と免疫学の治療法を説明できる。8. 生殖免疫にかかわる免疫応答を説明できる。9. 移植免疫、移植片対宿主病の病態を説明できる。10. 免疫抑制性細胞について説明できる。						3	3	3		3				
112520J	薬理学 (基礎)	3年		68時間		○薬理学に関する基本的な知識を体系的に学習する。 ○薬理学的な思考方法を習得し、薬物治療に対する生体学習の基礎を作る。 ○薬物治療へ向けた応用力を養う（情報収集・分析 → 思考 → 判断）。	○薬物・毒物の濃度反応曲線を描き、その決定因子を説明できる。 ○薬物の受容体結合と薬理作用との定量的関連性及び活性薬・拮抗薬と分子標的薬を説明できる。 ○薬物・毒物の用量反応曲線を描き、有効量・中毒量・致死量の関係を説明できる。 ○薬物・毒物の吸収、分布、代謝と排泄を説明できる。 ○薬物の生体膜透過に影響する因子を説明できる。 ○薬物投与方法（経口、皮下、皮膚、粘膜、注射、吸入、点眼、点鼻等）を列挙し、それぞれの薬物動態を説明できる。 ○薬物の評価におけるプラセボ効果の意義を説明できる。 ○インフォームド・コンセントとインフォームド・アセントの意義と必要性を説明できる。 ○臨床試験・治験と倫理性（ヘルシンキ宣言、第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ相試験、医薬品の臨床試験の実施の基準(Good Clinical Practice)を説明できる。 ○薬物に関する法令を概説し、医薬品の適正使用に関する事項を列挙できる。 ○副作用と有害事象の違い、報告の意義（医薬品・医療機器等安全性情報報告制度等）を説明できる。 ○薬理の有効性及び安全性とゲノムの多様性との関係を概説できる。 ○薬物（オピオイドを含む）の薬理、耐性、タキフィカシー、依存、習慣性や中毒を説明できる。 ○主な薬物アレルギーの症候、診断を列挙し、予防策と対処法を説明できる。 ○薬物によるアナフィラキシーショックの症候、診断、対処法を説明できる。 ○各臓器系統（中枢・末梢神経、循環器、呼吸器、消化器、腎泌尿器、血液、内分泌等）に作用する薬の薬理作用、適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。 ○抗感染薬の薬理作用、適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。 ○抗腫瘍薬の適応、腫瘍の薬物療法（抗細胞性抗がん薬、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬）有害事象、投与時の注意事項を説明できる。 ○麻酔薬・鎮痛薬・鎮静薬の適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。 ○主な薬物の有害事象を概説できる。/年齢や臓器障害に応じた薬物動態の特徴を考慮して薬剤投与の注意点を説明できる。/薬物（動態的）相互作用について例を挙げて説明できる。 ○分子標的薬の薬理作用と有害事象を説明できる。 ○薬理医学の特徴や、主な和薬（漢方薬）の適応、薬理作用を概説できる。 ○ポリファーマシー、使用禁忌、特定条件下での薬物使用（アンチ・ドーピング等）を説明できる。/有機リン剤、有機塩素剤と有機溶剤による中毒の機序、診断と治療を説明できる。 ○アルコール、覚醒剤・麻薬・大麻などの乱用薬物による中毒を説明できる。/医薬品による中毒を説明できる。								3	3	3		1	1	1

							R5年度 医学科 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー（DP）） (3＝DP達成のために、特に重要な事項 2＝DP達成のために、重要な事項 1＝DP達成のため、望ましい項目 あてはまらない項目は空欄。)														
							医療人としての適切な判断力・行動力		コミュニケーション能力		問題解決・自己研鑽能力		知識を統合し活用する能力	臨床能力（知識・技能・態度を統合し活用する能力）		研究への志向力		グローバル化への志向力	地域医療への志向力		
時間割コード (7桁)	授業科目	履修学年	通年	前期	後期	GIO(一般目標)、学修目標	SBO(行動目標)、学修成果(到達目標)	1. 豊かな人間性、幅広い教養と高い倫理観に基づいて物事を判断し、行動することができる。	2. 生命の尊厳及び患者の権利と人格尊重の重要性を理解し、患者の立場に立って行動することができる。	3. 医療安全の重要性を理解し、また、医師の義務や規則を遵守して行動することができる。	4. 医療人に必要なコミュニケーション能力を身につけ、患者やその家族と良好な人間関係を築くことができる。	5. 多職種連携のチーム医療を理解し、相互を尊重し行動することができる。	6. 未知の課題に対して、自ら積極的に解決を図ろうとすることができる。	7. 生涯にわたる自己研鑽に励むことができる。	8. 基礎医学、社会医学及び臨床医学で修得した知識を統合し、医学・医療に関する事象を幅広い視野で考えることができ	9. 修得した医学の知識をもとに、患者の病態から治療・ケアのアプローチまで概説することができる。	10. 基本的な知識、技能、態度を身につけ、患者を総合的に診察・診療することができる。	11. 研究心（リサーチマインド）を持って、真理を探究し、未知の分野を切り拓こうとすることができる。	12. 海外の医療や異文化を理解し、グローバルな視点で物事を判断し行動することができる。	13. 地域医療が抱える諸問題に対して積極的に取組もうとすることができる。	
						総合診療・地域医療コースでは、生涯学習として必要なスキルである自己主導型学習を学び、それを実践するために、Problem-based-Learning形式での学習を行う。臨床実習、前期研修に進んだ際に活用できる一般的な能力の取得につながる教育を提供する。内容としては、問診から始まる初期診療の組み立ての学習が中心となる。日常診療で多い症候に対して鑑別診断を挙げ、その仮説を修正しながら考えていく思考プロセスを身につける。	1.問診、身体所見、検査所見から診断に導く 初期診療 の組み立てを理解し、基本的 診療 計画立案できる。 2. 病歴を聴取できる。 3. 患者の疾患・病い・健康観を理解する事について知識を有する。 患者の疾患・病い・健康観を統合して理解する事について知識を有する。 患者のコンテクストを理解する事について知識を有する。 4. 臨床推論について説明できる。 5. 血液検査、尿検査の 基準範囲の意義を理解し、測定誤差の要因を説明できる。 6. 日常診療で多い症候（発熱、咳、腹痛、頭痛、胸痛）について、鑑別診断を説明できる。 7. 一般的な身体診察法（基本的な流れ、バイタルサインの解釈）についての知識を有する。 8. 一般的な身体診察法（胸部の聴診）の結果を解釈できる。 9. 疑問を調べる際の適切な方法を説明できる。 10. 論文を読むための基本的な型を理解する。 11. 疑問を調べる際の基本的な医学英語を理解できる。 12. 在宅医療で行う範囲、在宅医療の価値・意義について、患者の自己実現支援という観点から理解する。 13. 介護保険制度の概要について知識を得る。介護保険制度において、医師は主治医意見書を作成する必要がある事を理解する。 14. 主治医意見書の記載方法、ADL レベル、認知症レベルの判定方法について理解する。介護保険制度における介護サービスの種類、内容、適応について知識を得る。 15. 総合診療及び総合診療医の役割について 説明できる。							1	2	3	1	2		2	
116403J	消化器	3年			90時間	消化器系の正常構造と機能を理解し、主要な消化器疾患の病態生理、原因、症候、診断、鑑別診断と治療を学ぶ。	1. 消化器系各臓器の構造と機能を理解する。 2. 主な消化器疾患の原因、病態、症候、診断、治療、疫学について理解する。 3. 消化器疾患の主な検査法の特徴を理解する。 4. 消化器系の救急疾患に対する対処法を理解する。 5. 消化器疾患の病理について その特徴を理解する。	2	2	2	2	2	3	2	2	2	2	1	2	2	2
116404J	内分泌・代謝・乳腺	3年			60時間	内分泌・代謝系の構成と機能を理解し、主な内分泌・代謝疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。	1）構造と機能 ①ホルモンの構造、作用機序と分泌調節機能 ②各内分泌器官の位置と分泌されるホルモン ③視床下部ホルモン・下垂体ホルモンの名称、作用と相互関係 ④甲状腺と副甲状腺（上皮小体）から分泌されるホルモンの作用と分泌調節機構 ⑤副腎の構造と分泌されるホルモンの作用と分泌調節機構 ⑥膵島から分泌されるホルモンの作用 ⑦男性ホルモン・女性ホルモンの合成・代謝経路 ⑧男性生殖腺、女性生殖腺の形態と機能 ⑨ビタミン、微量元素の消化吸収 ⑩糖質・タンパク質・脂質の代謝経路と相互作用を説明できる。 2）診断と検査の基本 ①ホルモンの過剰または欠乏がもたらす身体症状 ②血中ホルモン濃度に影響を与える因子 ③ホルモンの日内変動 ④ホルモン分泌刺激試験と抑制試験の原理と反応の型 ⑤エネルギー摂取の過剰または欠乏がもたらす身体症状 3）症候 ①低身長 ②甲状腺腫 ③肥満・やせ ④月経異常 4）疾患 糖尿病、下垂体疾患、甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、副甲状腺機能亢進症、副甲状腺機能低下症、下垂体前葉機能亢進症、下垂体前葉機能低下症、下垂体後葉機能亢進症、下垂体後葉機能低下症、下垂体機能亢進症、下垂体機能低下症、下垂体機能亢														

							R5年度 医学科 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー（DP）） （3＝DP達成のために、特に重要な事項 2＝DP達成のために、重要な事項 1＝DP達成のため、望ましい項目 あてはまらない項目は空欄。）															
							医療人としての適切な判断力・行動力		コミュニケーション能力		問題解決・自己研鑽能力		知識を統合し活用する能力	臨床能力（知識・技能・態度を統合し活用する能力）		研究への志向力		グローバル化への志向力	地域医療への志向力			
時間割コード (7桁)	授業科目	履修学年	通年	前期	後期	GIO(一般目標)、学修目標	SBO(行動目標)、学修成果(到達目標)			1. 豊かな人間性、幅広い教養と高い倫理観に基づいて物事を判断し、行動することができる。	2. 生命の尊厳及び患者の権利と人格尊重の重要性を理解し、患者の立場に立って行動することができる。	3. 医療安全の重要性を理解し、また、医師の義務や規則を遵守して行動することができる。	4. 医療人に必要なコミュニケーション能力を身につけ、患者やその家族と良好な人間関係を築くことができる。	5. 多職種連携のチーム医療を理解し、相互を尊重し行動することができる。	6. 未知の課題に対して、自ら積極的に解決を図ろうとすることができる。	7. 生涯にわたる自己研鑽に励むことができる。	8. 基礎医学、社会医学及び臨床医学で修得した知識を統合し、医学・医療に関する事象を幅広い視野で考えることができる。	9. 修得した医学の知識をもとに、患者の病態から治療・ケアのアプローチまで概説することができる。	10. 基本的な知識、技能、態度を身につけ、患者を総合的に診察・診療することができる。	11. 研究心（リサーチマインド）を持って、真理を探究し、未知の分野を切り拓こうとすることができる。	12. 海外の医療や異文化を理解し、グローバルな視点で物事を判断し行動することができる。	13. 地域医療が抱える諸問題に対して積極的に取組もうとすることができる。
116413J	成長・発達	4年			30時間	1. 新しい生命が誕生してから、新生児、乳児、幼児、学童、思春期を経て成人するまでの、身体的成長（諸臓器の発達）および機能発達（神経、精神、情緒、社会性の発達）について説明できる。 2. 成長・発達過程で起こる「形態的障害」と「機能的障害」に分けて説明できる。 3 小児保健活動の内容及意義を説明できる。 4. 新生児の分類、生理、評価方法について説明できる。 5. 新生児に起こる疾患の種類、診断と治療を説明できる。 6. 先天奇形・遺伝性疾患のみかた、臨床症状、種類、病因を系統的に説明できる。 7. 遺伝カウンセリングの目的、必要性、手法を系統的に説明できる。 8. 神経精神障害をきたす疾患の分類、病因、診断、治療について説明できる。 9. 先天性心疾患の血行動態、診断、治療について説明できる。 10. 小児の血液腫瘍・アレルギー・感染症・消化器・歯科領域の診断、治療を説明できる。 11 小児の内分泌代謝疾患の種類、診断、治療を説明できる。			2	2	2	2		3	2		2	1	2	2	2	
116414J	精神・行動	4年			30時間	1. 精神医学に関する主要原因、病態、機序、治療について理解する。 2. 精神医学の多面性 精神病理学的側面、身体医学の側面 社会医学の側面 を理解する。 3. 精神疾患患者ならびに疾患に関する問題を精神医学的に捉え解決するために、診察法、面接の仕方、症状を把握する能力、習慣を養う。								2	2							
116419J	診察診断学・共用試験	4年			120時間	患者の訴えから病態を正しく把握する医療面接の基本的手法を学ぶとともに、身体診察法の基本手法を講義、シミュレーター等による実習、OSCE演習を通して体得する。	1. 患者の訴えを聞いて病歴をとり、診療録に記載できる。 2. バイタルサイン、皮膚や体型、胸部、腹部などの理学の所見をとり、系統的に診療録に記載できる。 3. 救急時に求められる対応の原則を説明でき、実際にACLSが実施できる。 4. 小児や妊婦に伴う医療面接と身体診察の留意点を説明できる。 5. 医療における安全性の確保と危機管理の原則を説明できる。 6. 臨床試験や遺伝子診断・治療、緩和医療などにおけるインフォームド・コンセントの原則を説明できる。 7. 臨床実習を行うために必要な医学知識を習得しているか否か確認する。			2	2	2	3				3	3	3			
116320J 116311J	臨床実習Ⅰ・Ⅱ	4～6年			30 40時間	将来医師として必要な実践的臨床能力を修得することを目標とする。	・ 患者や指導医、病棟スタッフと良好な関係を築く能力 ・ 患者から情報を的確に聞きだし、まとめる能力 ・ 身体所見を正しくとり、診療内容を記載する能力 ・ 要点を把握し、プレゼンテーションする能力 ・ 基本的検査・基本的操作処置を実施する能力 ・ 問題点を抽出し、解決に向かって系統的にアプローチする能力 ・ 患者から得た情報と臨床病態学の知識を統合する能力 ・ 学習に必要な情報を図書館やコンピューターを使って見つける能力			3	3	3	3	3	2	2	3	3	3	2	2	3
116503J	膠原病	4年			30時間	膠原病および膠原病関連疾患、自己炎症性疾患、免疫不全症の病態を理解し、症候、診断、治療について学ぶ。	1. 各疾患における原因、病理所見を理解する。 2. 各疾患における血液検査、尿検査、免疫学的検査の意義や動向を理解する。 3. 各種自己抗体と疾患や病態との関連性を理解する。 4. 各疾患における病態、症候、診断法、治療、予後について理解する。 5. 自己免疫、自己炎症の概念を理解する。 6. 副腎皮質ステロイド薬および免疫抑制薬の作用、副作用を理解する。 7. 標的治療と免疫学的機序の関係を理解する。 8. 原発性免疫不全症の病因（機序）、症候、診断、治療、予後について理解する。									2	2					
116504J	アレルギー・皮膚	4年			30時間	皮膚は主体と外界を境界する器官であり、それ自身であるいは内臓臓器と連携しながら種々の機能を果たしている。このような観点から皮膚に関する生理的及び病的状態が理解できるように努力する。 アレルギーの機序を理解し、アレルギー機序に関連する疾患について、症候、診断、治療について学ぶ。	1. 皮膚の構造と機能を理解する。 2. 皮疹の見方とそのバックグラウンドを理解する。 3. 皮膚疾患の検査法を理解する。 4. 皮膚疾患の診察の進めかたを理解する。 5. 皮膚と内臓臓器との関連を理解する。 6. 皮膚疾患の治療法を理解する。 1. アレルギーの5型の機序を理解する。 2. アレルギー機序の関与する皮膚科、耳鼻咽喉科、眼科、呼吸器科領域の疾患について理解する。 3. アレルギー疾患の治療法について理解する。									2	2					
116411J	麻酔・救急・Acute Care Surgery	4年			90時間	・麻酔・全身管理に必要な基礎的知識および技能を習得する。 ・救急医療を理解するために、社会的なシステムと救急疾患の初期治療を学ぶ。 ・集中治療 管理 の必要性を理解し、その基本的治療を学ぶ。 ・Acute Care Surgery の専門性を理解し、治療戦略について説明できる				2	2	2	1	3	2	2	2	2	1	2	2	2
116415J	腫瘍・緩和ケア・老年学	4年			90時間	臨床腫瘍学・緩和ケア・老年学 について 理解する。	1. 臨床腫瘍学における基礎研究、病理、臨床薬理について説明できる。 2. がん化学療法、放射線治療の目的、適応、有害反応について説明できる。 3. がんの診断、検査について説明できる。 4. がん化学療法の有害反応とその対策について説明できる。 5. 遺伝性腫瘍やがんゲノム医療について説明できる。 6. がんに対する外科治療の目的、適応、合併症について説明できる。 7. 各種がんに対する標準的化学療法の概念と適応について説明できる。 8. がん化学療法の有害反応とその対策について説明できる。 9. 緩和ケアの概念について理解する。 10. 痛みや症状を和らげるための知識とその対応法を理解する。 11. 加齢に伴う身体的変化、精神・心理的变化、高齢者に特徴的な病態を理解する。 12. 高齢者がんに対する治療の特性や方法を説明できる。 13. 高齢者に対するリハビリテーションの目的、適応、方法を説明できる。			2	2	2	2	2	3	2	2				2	
116501J	呼吸器・感染症	4年			90時間	・呼吸器系の構造と機能を理解し、主な呼吸器疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。 ・主要な感染症の疫学、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。診断と治療に必要な病原微生物、感染臓器と治療薬の関係性を理解する。	1呼吸器感染症では、主な病原体を列挙し、症候、診断と治療を説明できる。 2呼吸器の異常について、概説できる。			2	2	2	2	1	3	2	2	2	1	2	2	2
116502J	循環器	4年			60時間	循環器系の正常な構造と機能を知り、主要な循環器疾患の病態生理を理解し、診断・治療を行うための基本を習得する。	1. 循環生理を理解し、各種の心疾患の原因、病態、診断、治療を学ぶ。 2. 不整脈の病態、診断、治療を学ぶ。 3. 心血管疾患の外科治療を学ぶ。 4. 高血圧、動脈硬化について学ぶ。			2	2	2	2	1		2	2	2	1	2	2	
118701J	総合診療のコアコンピテンシー	1～6年			60時間	1. 総合診療マインドを持つ医学生が、通常の臨床実習に比して、より実践的で実用的な総合診療に接することで、その資質を修得する。 2. 診療所や病院において、通常の臨床実習では修得が困難な、人間中心の医療・ケアについての知識・技能・態度を修得する。 3. 上記について6年間で断続的にコースに取り組むことで、総合診療領域におけるコア・コンピテンシーについて、6年生修了時に初期臨床研修医師7時の習熟度に達することを目標とする。	1. 総合診療領域におけるコア・コンピテンシーの「人間中心の医療・ケア」について説明できる。 2. 医療現場での実習を行い、体験症例に対しての「人間中心の医療・ケア」についてのポートフォリオを作成できる。 3. 一般外来患者に対して、医療面接と基本的身体診察法を施行し、診断仮説を立てることができる。 4. 一般外来患者に対して、生命に関わる重篤な疾患と、頻度の高い疾患を意識した診断仮説を立てることができる。			3	3	3	2	2	2	3	3	3	3	2	2	3
118705J	しまね総合診療医の集い	1～6年			15時間	1. 総合診療マインドを持つ医学生が、通常の臨床実習に比して、より実践的で実用的な総合診療に接することで、その資質を修得する。 2. 診療所や病院において、通常の臨床実習では修得が困難な、人間中心の医療・ケアについての知識・技能・態度を修得する。 3. 上記について6年間で断続的にコースに取り組むことで、総合診療領域におけるコア・コンピテンシーについて、6年生修了時に初期臨床研修医師7時の習熟度に達することを目標とする。	1. 総合診療領域におけるコア・コンピテンシーの「人間中心の医療・ケア」について説明できる。 2. 医療現場での実習を行い、体験症例に対しての「人間中心の医療・ケア」についてのポートフォリオを作成できる。 3. 一般外来患者に対して、医療面接と基本的身体診察法を施行し、診断仮説を立てることができる。 4. 一般外来患者に対して、生命に関わる重篤な疾患と、頻度の高い疾患を意識した診断仮説を立てることができる。															
118706J	臨床スキル育成セミナーⅠ	1～6年			20時間	1. 総合診療マインドを持つ医学生が、通常の臨床実習に比して、より実践的で実用的な総合診療に接することで、その資質を修得する。	1. 一般外来患者に対して、医療面接と基本的身体診察法を施行し、診断仮説を立てることができる。 2. 一般外来患者に対して、生命に関わる重篤な疾患と、頻度の高い疾患を意識した診断仮説を立てることができる。			2		2	2		2	3	3	3	3			2
118707J	臨床スキル育成セミナーⅡ	1～6年			20時間	1. 総合診療マインドを持つ医学生が、通常の臨床実習に比して、より実践的で実用的な総合診療に接することで、その資質を修得する。	1. 一般外来患者に対して、医療面接と基本的身体診察法を施行し、診断仮説を立てることができる。 2. 一般外来患者に対して、生命に関わる重篤な疾患と、頻度の高い疾患を意識した診断仮説を立てることができる。			2		2	2		2	3	3	3	3			2
118708J	ハンズオンエコーセミナーⅠ	1～6年			20時間	1. 総合診療マインドを持つ医学生が、通常の臨床実習に比して、より実践的で実用的な総合診療に接することで、その資質を修得する。 2. 実臨床で有用とされるレベルのエコーの実技履修とエコーレポートの作成ができる。	1. 実臨床でのエコー検査の適応について修得し、説明ができる。 2. 実臨床で有用とされるレベルのエコー実技ができる。 3. 実臨床で有用とされるレベルのエコーレポートの作成ができる。											3				
118709J	ハンズオンエコーセミナーⅡ	1～6年			20時間	1. 総合診療マインドを持つ医学生が、通常の臨床実習に比して、より実践的で実用的な総合診療に接することで、その資質を修得する。 2. 実臨床で有用とされるレベルのエコーの実技履修とエコーレポートの作成ができる。	1. 実臨床でのエコー検査の適応について修得し、説明ができる。 2. 実臨床で有用とされるレベルのエコー実技ができる。 3. 実臨床で有用とされるレベルのエコーレポートの作成ができる。											3				

								R5年度 医学科 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー（DP）） (3＝DP達成のために、特に重要な事項 2＝DP達成のために、重要な事項 1＝DP達成のため、望ましい項目 あてはまらない項目は空欄。)															
								医療人としての適切な判断力・行動力		コミュニケーション能力		問題解決・自己研鑽能力		知識を統合し活用する能力		臨床能力（知識・技能・態度を統合し活用する能力）		研究への志向力		グローバル化への志向力		地域医療への志向力	
時間割コード (7桁)	授業科目	履修学年	通年	前期	後期	GIO(一般目標)、学修目標	SBO(行動目標)、学修成果(到達目標)	1. 豊かな人間性、幅広い教養と高い倫理観に基づいて物事を判断し、行動することができる。	2. 生命の尊厳及び患者の権利と人格尊重の重要性を理解し、患者の立場に立って行動することができる。	3. 医療安全の重要性を理解し、また、医師の義務や規則を遵守して行動することができる。	4. 医療人に必要なコミュニケーション能力を身につけ、患者やその家族と良好な人間関係を築くことができる。	5. 多職種連携のチーム医療を理解し、相互を尊重し行動することができる。	6. 未知の課題に対して、自ら積極的に解決を図ろうとすることができる。	7. 生涯にわたる自己研鑽に励むことができる。	8. 基礎医学、社会医学及び臨床医学で修得した知識を統合し、医学・医療に関する事象を幅広い視野で考えることができる。	9. 修得した医学の知識をもとに、患者の病態から治療・ケアのアプローチまで概説することができる。	10. 基本的な知識、技能、態度を身につけ、患者を総合的に診察・診療することができる。	11. 研究心（リサーチマインド）を持って、真理を探究し、未知の分野を切り拓こうとすることができる。	12. 海外の医療や異文化を理解し、グローバルな視点で物事を判断し行動することができる。	13. 地域医療が抱える諸問題に対して積極的に取り組もうとすることができる。			
118710J	臨床研究(学会発表・論文作成)	1～6年	15時間			1. 総合診療マインドを持つ医学生が、通常の臨床実習に比して、より実践的で実用的な総合診療に接することで、その資質を修得する。 2. 実臨床で活用できる、臨床疫学・統計学・EBMについての知識・技能を身につける。 3. 総合診療に関する学会発表や論文作成を行う。	1. 総合診療領域において、症例報告・研究による学会発表や論文作成をすることができる。	2		2	2	2	2	2	2	2		3	3	2			
118711J	胸部画像コース	4～6年	15時間			1. 総合診療マインドを持つ医学生が、通常の臨床実習に比して、より実践的で実用的な総合診療に接することで、その資質を修得する。 【ディプロマシーとの関連】 《臨床能力（知識・技能・態度を統合し活用する能力）》	1. 総合診療マインドを持つ医学生が、通常の臨床実習に比して、より実践的で実用的な総合診療に接することでその資質を修得する。 2. 実臨床で必須とされるレベルの胸部画像読影と読影レポートの作成ができる。							2	2	1	2						